

## 旭市ふるさと文芸賞の受賞作品を紹介

郷土愛を育てることなどを目的として開催された「旭市ふるさと文芸賞」の授賞式が1月28日に行われました。

受賞作品のうち、詩の部門で優秀賞を受賞した、市内小学生の2作品と、作品への講評を紹介します。

### 「学校」 林 笙音さん

土曜日の午後図書館の帰りに  
学校の横の道を通りました  
ぼくは思わず「中央小だ」とさげびました  
学校にはいつも元気な友だちや  
ぼくがけがをしたときには  
重いランドセルを「えいっ」と  
もってくれる友だちもいる  
早く月曜日にならないかな  
ぼくの心がジャンプする

#### 講評

いつも通っている学校を、土曜日の午後、図書館の帰りに見つけて思わず叫んでしまったという表現から、学校が大好きだという気持ちが強く伝わってきました。そして、学校で友だちと楽しく生き生きとしている様子が目に浮かんできました。「心がジャンプする」という最後の文が、生命の躍動感をよく表しています。

### 「いろいろな旭」 石毛 優菜さん

海が美しい旭  
生き物がたくさんの旭  
自然がたくさんの旭  
歴史がたくさんの旭  
見つけなおすと  
いろいろな発見がある  
そんな旭が 大好きだ

#### 講評

旭という言葉の効果的に繰り返しているいろいろな旭の発見というテーマを表現できました。「そんな旭が大好きだ」という言葉に実感があり、旭への思いが伝わってきます。見つけ直すと、まだまだたくさんの旭の発見がありそうで、続きを書きたくなるような楽しい詩になりました。

今回は、紙面の都合により詩の部門から2作品の紹介となりました。市ホームページ(<https://www.city.asahi.lg.jp/soshiki/29/23131.html>)

で全ての作品がご覧いただけます。



市長から賞状を受け取る受賞者

## 広報で振り返る

# あの日あのときのあさひ

第6回

1980年(昭和55年)3月号

このコーナーでは過去の広報を紹介し、その時代を振り返ります。

今号は広報うなかもみ1980年3月号を紹介します。表紙は鶴巻小の校舎竣工が報じられています。校舎完成祝いでは、児童がつくったみこしを担いだり、鼓笛パレードをしたりしたそうです。

特集では、児童の新校舎への思いを書いた作文が掲載されています。「とてもきれいでうれしい」など、喜ぶ声が多くありましたが、6年生は「せっかく完成するのに3か月しかられない」と、うれしくも残念な気持ちをつづったものもありました。



特集記事

### 昭和55年の主な出来事

- 日本の自動車生産台数が世界1位に
- 巨人の長嶋監督が辞任、王貞治選手が引退



表紙